

ずいそう

ロングステイ

吉田和男



近年、定年退職者や早期退職者のシニアを対象とした海外ロングステイが年々増加し、セカンドライフの選択のひとつとなっている。主だった地域は東南アジアを始め、オセアニア、ハワイ他へ行くことが可能であり、各国の受け入れ体制も整っているようである。国内においても紹介やサポートをしてくれる機関が多くあり、インターネットで検索すると余りある情報の量を得ることができる。しかしながら概して日本人は海外慣れをしていない人が多く、私もそうであるように、特に中高年は自分から異国の人の中に飛び込んで会話をすることが苦手な人が多いのではないだろうか。また、欧米人のようにのんびりとビーチサイドで読書をするというような時間の過ごし方に慣れていない人も大半ではなかろうか？ 自分自身も典型的な日本人である。この四十余年を仕事、仕事に追われ家族の為、会社の為、ひいては社会の為と大義名分を掲げ突き進んで来た感がある。子供達はすでに独立しており、自宅に帰っても妻がひとりで待っているだけで、必然的に身近に迫ったりタイヤ後のセカンドライフが話題となる事が多くなっている。そんな中で旅行好きな私が50歳頃より勤めが終わったら、どこか外国で暮らしてみたいと漠然と思っていたことがある。今風に言うロングステイ（海外移住）である。

そこで私が想うロングステイについて少し考えてみたい。ロングステイは国内では沖縄がやっており、言語や食事等の環境を変えたくない人は沖縄で十分セカンドライフを満喫できると思う。が、理想はやはり海外でのロングステイをしてみたいと思っている。その中でも、一番候補にしている場所がタイのチェンマイである。これまでもタイは数回訪問しており、同じアジア人として違和感もなく、何となく親しみを感じる国で、物価が安いのも大きな魅力である。家内に言わせるとタイは暑いとのことだが、北部のチェンマイはタイ第2の都市で四季もあり、1日のうちでも温度差があり気候の上では過ごしやすい地域で、多くの日本人がロングステイをしているようである。しかしながら、観光で行くのと実際に住むのでは…との乖離が若干不安ではあるがそんなことをいちいち考えていたのでは何処へも行けない。そこでタイのチェンマイを100倍楽しんでロングステイできる方法を考えてみたい。ロングステイする上での不安は生活環境であり、

- ①治安②言葉③医療④食事等がある。
①治安については外務省のホームページを閲覧してみると今、現在「感染症危険情報」や「大規模な集会・

デモに関する注意喚起」等の情報があり事前に知っていればこれを回避する行動で解消される。

- ②言葉については現地の言葉を話せるに越したことはないが「身振り手振りで話す」とか「カタコトで話す」ことで用は足りる。お互い人間同士なのだから全くわからないと言うことは無いと思っている。
③医療関係は概してアジア方面の医療レベルは低いものと思いつているが、最近は分野によっては日本より優れているものもあるようだ。日本語の話せる医師も居られるようだし、都市部でありそんなに心配していない。
④食事については自分の口に合わないのではと心配する面もあるが現地の料理を味わうこともロングステイの楽しみの一つである。いろいろの屋台が出て100円前後で様々な郷土料理が楽しめる。必ず、火の通ったものを口にし、水道水は飲まずミネラルウォーターにした方がよい。たまには日本食レストランに行ったり、日本食材店を利用したい。

タイのチェンマイでは「のんびり、ゆっくり」をベースにし、好きなゴルフを始め魚釣りを楽しんだり、古都や寺院の散策等独特のタイ文化に触れたいと思っている。又、余裕があれば、メイドさんのお世話になり家内を家事から解放し、タイを拠点に海外旅行にもと、二人で存分に楽しめればと思っている。気になる毎月の生活費用も年金の範囲で充分可能と聞いているので国内で生活することを考えれば半分近い金額で十分に老後をエンジョイできるのもまた大きな魅力である。とりあえず、「ロングステイの体験ツアー」が、いろいろな旅行会社にて企画されているので2~3週間ではあるが、まず参加してみたい。私の夢の実現にむけ、最大のパートナーである家内を数年かけてロングステイに興味をもつように少しずつ洗脳し、そして今やっとな、期間限定ではあるが了解を得ることができた。今後は、間近に実行できるこの時期に、残りの会社生活に悔いを残さないようやり遂げること、その時に夫婦そろって元気で健康に心配がないことが夢を実現するものであることを肝に銘じておきたい。仏教国で米食、なんとなく日本と共通点のあるタイ国に数年後に自分が生活していることを想像するとワクワクした気分になる。

ロングステイで充実したセカンドライフを！